はじめに

一生ものの器皿（きべい）と料理道具

左古文男

できるだけ多くのモノを所有することが豊かさだと思われていた時代は終わり、近年は持ち物を厳選したシンプルなライフスタイルが脚光を浴びています。不要なモノなどを減らし、愛着がわくモノだけを手許において生活や人生に調和をもたらし、豊かな暮らしを手に入れようという考え方です。

巷間、断捨離を実践する人も増加傾向にあるようですが、本書は不要なモノを断つことを推奨するのではなく、終わりのないモノへの追求から距離をとり、これはと思える逸品を見つけて、一生つきあうことを提案するものです。

たとえば酒器や茶器は、「育てる」と表現されます。長い時間をかけて丁寧に使い込むことによって、酒やお茶が器の色と味わいを深め、見所のある唯一無二の存在にしてくれるのです。これは、器皿に限られた話ではありません。鍋や包丁などの料理道具も使い込んでいくうちに手に馴染み、経年とともに表情が変わって愛着がわいてくるものです。

本書では、まな板、包丁、鍋などの基本の料理道具から手づくりの器皿まで、ほんとうに使い勝手がいい道具や、特上の日用品を紹介しています。本書を手に取ってくださった皆様に、使い込んでいくことによって得られる魅力や一生モノと暮らす愉しみが少しでも伝えられたら幸いです。